＜第５号＞

緑のかけはし

仙台市青葉区堤通
雨宮町１番１号
（〒981-8555）
東北大学農学部
国際交流委員会
No.5 Mar. 1999

International Communication for Division of Agriculture (ICDA)

芽吹きの季節に

評議員　秋葉征夫

春は芽吹きの季節、そして生まれ変わりの季節です。陽のよく当たる道ばたの、見えかくれする残雪のそばで少しずつふくらむ蕗のとうは、駆け足で飛びだそうとしている春を私たちの目に印象づけているように思えてなりません。私たちの農学部も本年４月から生まれ変わります。２年前から進めてきた大学院重点化計画がようやく完成し、大学院に重心を置いた研究を重視する大学として整備されることになりました。大学院は新しい４専攻に再編成され、新設される大学院専任講座が加わって、教職員、学生そして外国からの研究者・留学生と一体となって農学の教育研究を進めていくことになります。

杜の都、仙台、その中心部近くにある農学部キャンパスは、木や緑が比較的豊富な憩いのスペースとして近隣からも愛されているようです。そのキャンパス風景は、世界のいろいろの国から来ている留学生の皆さんの大学とはそれぞれ違うのかもしれません。約20年前、私はアメリカのジョージア大学に留学のために、家族と共にアトランタに向かいました。アトランタ空港間近の機上で私の目に焼き付いたのは、街そして近郊にある広大な森と圧倒するような緑でした。仙台しか知らなかった私にとっては、仙台の緑、あるいはそれ以上の杜の都があること、そして緑の多いジョージア大学のキャンパスは、大きな驚きと感激だったといえます。初めての海外生活・そして留学生活での言葉・コミュニケーションのギャップ、習慣の違い、そしてディスカッションでの英語力の不足によるくい違いなど、留学生の皆さんが経験するようなストレスを私も同じように受けましたが、研究室のそばの巨大なマグノリア（泰山木）やドックウッド（花水木）はそんな心の痛手を慰めてくれたように思います。

この農学部で学ぶ留学生の皆さんは、文化習慣の違いなどの様々なストレスと闘いながら食糧・生命・環境に関する勉強を、この農学部キャンパスで進めています。皆さんはそれぞれの分野での最先端の研究を進めて知識を求めるために日夜努力していますが、それと共に、皆さんの国々の文化、習慣、歴史を私たちに学ばせてくれる役割も持っているのではないでしょうか。皆さんの国々の、地方の、そして小さな町や村の文化や農業のすばらしさを、この農学部キャンパスに、新しい「芽吹き」として植え付けていただくことを期待しています。

留学生 オリエンテーション実施

平成10年11月25日」(火)に農学部留学生オリエンテーションを実施しました。

このなかで、元国際協力事業団（JICA）研修監理員の泉沢みゆき氏と、財交際学友会留学生会館職員の伊藤彰子氏の御二方に、留学生活及び国際交流に関する内容で特別講演をしていただきました。

また、オリエンテーション終了後、留学生、指導教官、日本人チューターと一緒に懇親会を開催しました。以下は、当日の特別講演の要旨です。

一番大切なものそれは生命

―よいコミュニケーションはあなたの生命を救う―

元国際協力事業団研修管理員　泉沢みゆき氏

コミュニケーションの３つの要素は、意志伝達（言語能力）、人間関係（friendship）、情報（information）です。

ところで、毎日の生活の中では誰でも事故に遭う可能性があります。もし皆さんが事故に遭ったら、日本語できちんと状況の説明が出来るでしょうか。もしかすると留学生自身においては、ある程度の日本語能力があるので、こういった点はあまり問題にならないかもしれません。しかし人間はパニックに陥ったら母国語に頼ってしまうのです。

また、もし自分自身が事故に遭ったり急病になったときに、皆さんの家族は日本語でコミュニケーションがとれるでしょうか。例えば救急車を呼ぶとき等に誰か他の人の助けが必要になったとします。そのときに連絡や相談のできる日本人の友人、近所の知人はいるでしょうか。ここに、日頃の人間関係の大切さがでてきます。

仮に頭を強打した場合に、初期救急医療で事態の悪化を防ぐには、ケース発生から30分以内の処置が決め手になります。救急車を呼んだ場合、何事もなくスムーズに到着したとしても、最低５分から６分の時間がかかります。様々な悪条件が重なれば、救急車の到着時間は更に遅れることになります。また、救急車を呼ぶには正確な住所と、怪我人又は病人の様子を伝えなければなりません。

留学生Ａさんの場合を例にしてみましょう。この方はゴールデンウィークの夜、花見の帰り道で、酔って転倒してしまいました。口から血を流しており、当初、交通事故に遭ったのではないかと考えられたため、救急車で病院の救命治療室へ運ばれました。そのとき、治療のために２時間以上待たされましたが、怪我は思ったより軽傷であることが分かりました。

彼の場合は、いくつかの幸運が重なりました。まず、通報者があったこと。２つ目に、彼の住んでいた宿舎には夜間は警備員が一人しかいないため、その場から離れることができないのですが、その宿舎の嘱託の方と私は日頃から連絡を密にしていたので、運よく連絡がついたこと。３つ目は、私がその留学生Ａさんの指導教官とも連絡先を交換していたため、スムーズに連絡ができ、事態の悪化を防ぐことができたこと。彼（Ａさん）は日本語ができる方だったのですが、このときは興奮状態が続き、ほとんど日本語が話すことができなくなっていました。あなたは、何かあったときに頼りにできる日本人の知人をもっていますか？

もちろん、自分自身での管理も大切です。困ったときのために、仙台国際センターで配付している「Life in Sendai」に添付してある緊急用のカード等を常に携行しましょう。また、「外国人のためのQ and A」という冊子も販売しているので、役立ててみても良いでしょう。

ちなみに先程のＡさん（with made in Japanの歯）とはいまでも友好関係が続いています。

留学生向け宿舎の上手な利用について

(財)国際学友会仙台留学生会館 職員　伊藤　彰子氏

国際学友会について少し紹介させていただきます。

国際学友会は昭和10年に外務省の外郭団体として創立され、初代会長として近衛文麿氏が就任し、翌11年から留学生を受け入れ、日本語学校を開設しました。その後、昭和40年に京都支部、昭和47年には仙台支部を開設し、東京支部は現在400名の学生に対し日本語教育を行っており、仙台と京都は留学生の宿舎として運営されています。

仙台支部は本館54室、別館単身18室、夫婦用７室の形態で運営しており、現在72名の留学生が生活しています。ほとんどが東北大学の留学生で、農学部の留学生も７名ほど入居しています。

これらの留学生に対して、宿舎の提供をし、又さまざまな啓発活動を行っている私たちですが、御存知のとおり昭和47年以来20数年も経過している本館は、部屋のスペースや、共同のトイレ・シャワーなど、現在の留学生に提供する宿舎としては充分とはいえない部分もあります。

私どもの仙台留学生会館も含めて、上手な宿舎の活用法をお話したいと思います。

宮城県、特に仙台市に留学している留学生数は平成10年5月現在で941人です。そのうち公共の宿舎で生活している留学生は450名ほどです（約50%）。これを全国レベルから見ると、圧倒的に仙台で生活している留学生は恵まれているといえます（全国レベルでは約20～25%くらい）。いわゆる留学生向けの宿舎は、仙台では東北大学の国際交流会館、東仙台の仙台留学生会館、内外学生センターの仙台学生交流会館の3カ所があり、この他に市営住宅が利用できます。これらをいかに上手に利用し、卒業まで安心して生活するかをお話したいと思います。

まず、入居先として一番多いのは東北大学の国際交流会館です。ここが一番安く、部屋のスペースもあります。留学生には最も安心できる所ですが、入居できる期間が1年間と限られています。この宿舎は一度は留学生が利用できるわけですから、この1年間という期間をいつ利用するかを考えてほしいと思います。特にこの点は、指導教官や各学部の留学生担当の職員の方に考えていただきたいのです。

まず、留学生が来仙してすぐに国際交流会館に入居するというのが最も多いパターンです。これができれば指導教官もまあ安心というわけですが、ところがそうではありません。この理由は後でまたお話します。

次に多いのは国際交流会館の入居申請時期が過ぎてしまったので東仙台の仙台留学生会館にとりあえず入居するというケース（内外学生センターの仙台学生交流会館は来仙してすぐには入居できないシステムになっている）。例えば、10月に来仙して東仙台の仙台留学生会館に入居し、翌年の4月から東北大学の国際交流会館に引っ越すというパターンです。実はこれが最悪のパターンで、必ず1年後には国際交流会館を出なければならないわけですから、それからが大変です。残りの留学期間にもよりますが、例えば2年間の留学期間だとして6ヶ月を東仙台、1年を国際交流会館、では残りの6ヶ月はどうするのでしょうか。特に国際交流会館の家族用に入居している方が、留学期間残り6ヶ月で退去しなければならない場合、家族を先に帰国させ、残りの6ヶ月を仙台留学生会館で過ごすという例も少なくありません。アパートは残り6ヶ月というと入居が難しいし、家具や保証金等が無駄になります。こうしたパターンで「東仙台にもう一度何とか入居させてください」といってくる留学生が最近特に多く見うけられます。この場合、2年という留学期間であれば東仙台で1年間を過ごし、残りの1年間を国際交流会館で過ごすという選択が一番上手な利用方法になるわけです。ここで言いたいのは、指導教官も留学生自身も、何年の留学期間かということをよく考えて欲しいということなのです。先ほどの最初に国際交流会館に入ることがその留学生にとって必ずしも良いと言えないというのは、自分の2年から5年ぐらいの留学期間の中で必ず1年は国際交流会館に入れるわけですから、どの時期に入るのが一番得かということです。奥さんとか、家族をもっている人は特にいつ家族を呼び寄せるかということと密接に関係します。独身のとき国際交流会館に住むより家族で住んだほうがメリットがあるのは当たり前のことですから。

では、上手にこれらの宿舎を利用するにはどうしたら良いかというと、留学生は自分の留学期間の中で、いつ、どういうことをしたいか、例えば半年後に奥さんを呼びたいとか家族を呼びたいということを指導教官、あるいは仙台留学生会館の事務室とかに早めに相談することです。

最近多い例は、「来月奥さんを呼びます」とか、ひどいときは「来週呼びますので夫婦用の部屋はありませんか」と相談に来ることです。たまたまそのときに空きがあればいいのですが、ほとんどといっていいくらいすぐには部屋はありません。そうするとアパートを探すしかなくなるわけです。

これがある程度早い段階（例えば10月に入居した学生なら11月か12月頃）に事務室で相談を受けたとします。例えば自分の留学期間は平成10年の10月から3年間で、来年（平成11年）の2月か3月に奥さんをよびたいという留学生には、まず、「奥さんをよぶのは2月じゃなく3月末にしなさい。そして3月末から1年半を夫婦用の部屋で生活し、残りの1年を国際交流会館の夫婦用か、子供ができた場合は家族用に申請し入居したほうが良いと思う。」というようなアドバイスをしてあげることが出来ます。また、その人が私費留学生であれば内外学生センターの夫婦用や市営住宅も紹介できます。いつ頃から入居できるかという情報も事務室で教えてあげることができるわけです。このように、事務室に早めに相談すれば、余分な家具など用意しないで留学生活を送ることも可能なわけです。ぜひ、早めに指導教官とかそれぞれの宿舎の事務室に相談してください。

それからもう一つ、指導教官と留学生にお願いがあ

ります。最近、仙台留学生会館も含めて、留学生向けの宿舎に入居の申請をし、許可をもらった後のキャンセルが多いことです。もちろん、何カ所かに同時に申請することは悪いことではありませんし、留学生にしてみれば不安でしょうから仕方のない事だと思います。しかし、入居の許可をもらったら、やはり入居していただきたいと思います。あなたが入居の許可をもらったという事は、他の留学生がその会館を希望したのに入居できなかったという事なのです。他の留学生のためにも、入居のキャンセルは大変良くない事です。入るかどうか分からないときは、申請をしないか、申請書にそういう事情を書くなどしてください。

計画性をもって、上手な宿舎選びをしていただきたいと思います。

平成10年度 農学研究科修了生から

平成10年度、農学部・農学研究科では学部から1名、博士課程前期2年の課程から2名、同後期3年の課程から5名の留学生が卒業・修了されました。

大学院修了後、母国へ帰国された留学生から、コメントを寄せていただきましたので以下に紹介します。

前期課程修了　邵　雪　玲

日本に来てよかったと思っています

日本に来た4年間、前半の1年半は専業主婦でした。専業主婦として残念なことはなかったし、日本語を学んだり、ホームステイしたり、ショピングしたり日本の文化を感じて楽しかったです。

後半の2年半は東北大学農学部、水産資源化学研究室の留学生でした。留学の第1年間に次女を生んで家族、皆嬉しかった。このことは中国の場合は本当にできないのです。

研究室での研究はだんだんに慣れて、研究室の先生達、学生達と交流して、色々勉強になりました。博士学位を取りたいのですけれども、去年、主人が博士学位を取って娘達を連れて先に帰国したので残念ですが帰国することにしました。

来日前勤務していた中国武漢大学ではゼミ、中間報告などのようなことがありませんでした。今度帰国して、武漢大学の仕事を続けますが、日本で勉強したことを武漢大学の教職員と学生達に伝えて、中国の教育水準がもっと高くなるように、できるだけ中日交流の面に努力するつもりです。

後期課程修了　Cristine Louise Braun Moraes

If any country can be called enigmatic, Japan is so. When you walk down an ordinary street in a big city like Tokyo, it is hard to imagine (except for the signs) that you are not in any ordinary Western country. But there the similarity ends. Beneath this facade is a very complex and ancient culture that Iam still discovering, and hopefully will for the rest of my life since I am going to keep in contact with my Japanese friends.

When I first arrived in Japan I got impressed to this enigmatic atmosphere and I wanted as much as I could learn the country's culture, and I got really impressed how Japanese people keep there ancient ceremonies, festivals, using kimono, styling of house decoration and specials dishes for the main events during the year. I must confess that I really enjoyed a lot all the times Iwas invited to joy those moments with them, and it is positively going to be in my mind and my heart forever.

The other aspect that I also got impressed was the contrast of the ancient culture and ideas with the latest new generation technology. I could see this contrast in some places in Japan, that in some areas are really developed using the latest new generation equipmet, but in the other hand, they still following the ancient culture and way of thinking, with old ideas and not so developed in terms of technology and new equipment.

Thank you for introduced me to this enigmatic world.